

---

# 日本ロシア文学会会報 第51号 2022年3月

---

1. 会長挨拶 2. ロシア軍のウクライナ侵攻への抗議声明 3. ロシアの言葉・文学・文化を今、あるいはこれから学ぶ皆さんへ 4. ウクライナ情勢に関する情報共有のお願い 5. 2021年度第71回総会報告 6. 10月・12月・2月・3月理事会関連事項 7. 会員異動 8. 新役員・委員 9. ホームページリニューアルのお知らせ 10. その他 11. 事務局からのアナウンス 12. ご訃報

---

## 1. 会長挨拶

中村唯史

すでに学会ホームページ等で告知してきましたが、やはり三谷恵子前会長が2022年1月17日にご逝去されたことから書き起こします。ご病氣とのことは以前からうかがっていましたが、昨年11月に会長職を継いでからも学会業務についての質問や相談で12月末までご教示を受けていましたので、こんなにも早くご訃報を聞くことになるとは思ってもみませんでした。昨年度の全国大会でも一般枠に申請して研究報告をされ、年末には文学作品のご翻訳を上梓されたところでした。勤務校の委員会にも年明けまでオンラインで出席されていたようで、研究者、文筆家、大学人としての姿勢と矜持を貫かれました。心からの敬意を改めて表します。

前会長が発案された「若手ワークショップ」は、今年度より「日本ロシア文学会若手ワークショップ企画賞」として、3月末日まで募集がおこなわれました。若手研究者の皆さんの魅力ある企画が今後、いっそう多く立ち上がることを期待しています。やはり前会長の発意で始められた「日本ロシア文学会主催公開シンポジウム」は、新型コロナ・ウィルス禍の影響でその後の中断を余儀なくされていますが、今後の状況を注視しながら、再開にむけての時期と方法を模索していきます。

2022年度の全国大会は、秋に専修大学神田キャンパスで開催されることになり、前田和泉副会長を委員長とする大会組織委員会、開催校の石川達夫さんを委員長とする大会実行委員会が準備作業を始めています。開催形態は新型コロナ・ウィルスの状況に鑑みつつ慎重に検討していくこととなりますが、研究報告やワークショップ等の企画の募集はおおむね例年通りのスケジュールで行われる見込みです。会員の皆さんの、ぜひ積極的なご参加を呼びかけます。

前総会で方針が承認され、前執行部から引き継いだ支部改編につきましては、今後、該当支部間での調整がおこなわれます。各支部の支部長・事務局におかれましては、連絡があった際のご対応をお願いいたします。

また、学会事務局と広報委員会では、現在、学会ホームページのリニューアルと、会員情報管理の効率化に向けての作業を進めています。詳しくは本学会報の「9. ホームページリニューアルのお知らせ」をご覧ください。今後の学会員メーリングリストにもご注意ください。

(2022年2月23日記)

2022年2月24日に始まったロシア軍のウクライナ侵攻は、日本ロシア文学会にとっても衝撃であり、容認しがたいものでした。その後も続く流血の事態・戦況の悪化と、世界と日本で広まりつつある分断と排斥の動きに対して、2月28日に理事会と会長連名による「[ロシア軍によるウクライナ侵攻への抗議声明](#)」、3月15日に「[ロシアの言葉・文学・文化を今、あるいはこれから学ぶ皆さんへ](#)」を発出して、本学会としていっさいの戦争と抑圧に反対し、これを批判する姿勢を明らかにしました。全文を次ページより掲載しますので、ご参照ください。これらは学会ホームページ (<http://yaar.jp.org/>) から読むことができます。

研究者の親睦団体である本学会が学会員個々の思想・言論・信条・行動の自由に立ち入るものではないこ

とは言うまでもありませんが、今回の事態に対する学会員の動向や、研究や学生の指導に必要と考えられる情報は、可能なかぎり、学会員で共有していきたいと考えています。そのような情報は、学会ホームページにある「[ウクライナ情勢関連情報](#)」の欄に日々集約されていますので、適宜ご参照ください。詳しくは本学会報の「4. ウクライナ情勢に関する情報共有のお願い」をご覧ください。

文学・言語・思想・文化をめぐる研究は、世界の状況の如何にかかわらず、各人の信念に基づいて維持され、進められなくてはなりません。学会としても、そのために、できるかぎり機能していく所存です。学会員の皆様のご助力、ご協力をよろしくお願いいたします。

(2022年3月21日記)

## 2. [ロシア軍のウクライナ侵攻への抗議声明](#)

文学や芸術は、人間が感情や思考を存分に表現するために存在します。言語、思想、文化の発展のためには、平和で自由な人的・知的交流が不可欠です。しかし今、ウクライナでは、人々の思考も感情も恐怖と悲しみに凍りつき、暴力と分断と抑圧の事態が進行しています。

私たちはロシア軍のウクライナ侵攻を非難するとともに、犠牲者の苦しみと悲しみに思いを致します。この事態を深く憂慮し、ロシア政府に軍の即時撤退を求めます。

ウクライナに尊厳ある平和を。私たちは、戦争に反対するウクライナとロシア、全世界の人々との連帯を表明し、こうした人々すべての権利と自由が護られることを望みます。いっさいの暴力と抑圧に強く抗議します。

2022年2月28日  
日本ロシア文学会 理事会  
会長 中村唯史

### [Statement of protest against the invasion of Ukraine by the Russian army](#)

Literature and art exist for humans to freely express their emotions and thoughts. Peaceful and free human and intellectual exchange is indispensable for the development of language, thought and culture. But now, in Ukraine, people's thoughts and feelings are frozen in fear and sadness, and the situation of violence, division and oppression is worsening.

We condemn the invasion of Ukraine by the Russian army and feel the suffering and sadness of the victims. We are deeply concerned about the situation in Ukraine and urge the Russian government to withdraw its troops immediately.

We call for a dignified peace to Ukraine! We express our solidarity with all people against the war, those who live in Ukraine, Russia and all over the world, and demand that the rights and freedoms of all these people will be protected. We strongly protest against any kind of violence and oppression.

28 February, 2022.

Japan Association for the Study of Russian Language and Literature

[Оголошення протесту проти вторгнення російських військ в Україну](#)

Література й мистецтво існують для того, щоб людина безперешкодно висловлювала свої почуття та ідеї. Для розвитку мови, ідей та культури необхідне вільне та мирне особисте й інтелектуальне спілкування. Але зараз розум і почуття людей в Україні холонуть від жаху й болю; продовжується насилля, що роз'єднує та пригнічує людей.

Ми засуджуємо вторгнення російських військ в Україну й розділяємо страждання та горе жертв. Ми вважаємо нинішню ситуацію неприпустимою та вимагаємо від російського керівництва негайного виведення військ з України.

Надійний мир - Україні! Ми солідарні з усіма людьми в Україні, в Росії та в усьому світі, які протестують проти війни. Ми вимагаємо, щоб права й свобода усіх були захищені. Ми категорично протестуємо проти будь-якого насилля та пригнічення.

28 лютого 2022 року

Рада японської асоціації русистів  
Голова: NAKAMURA Тадаші

[Объявление протеста против вторжения российских войск в Украину](#)

Литература и искусство существуют для того, чтобы человек беспрепятственно выражал свои чувства и идеи. Для развития языка, идей и культуры необходимо, чтобы личное и интеллектуальное общение являлось мирным и свободным. А сейчас и чувства, и разум людей в Украине скованы страхом и горем; продолжается насилие, разделяющее и угнетающее людей.

Мы осуждаем вторжение российских войск в Украину и разделяем страдания и горе жертв. Мы считаем нынешнюю ситуацию недопустимой и требуем от российского правительства немедленного вывода войск из Украины.

Нерушимый мир Украине! Мы солидарны со всеми людьми, протестующими против войны, в Украине, в России и во всем мире, и требуем, чтобы свобода и права всех были защищены. Мы твердо протестуем против любого насилия и угнетения.

28 февраля 2022 г.

### 3. ロシアの言葉・文学・文化を今、あるいはこれから学ぶ皆さんへ

今回のロシア軍によるウクライナ侵攻で、ロシア語やロシア文学・文化を学ぶ、あるいはこれから学ぼうとしている皆さんは心を痛めているのではないかと思います。

「なぜ、自分はこんなことをする国の言語や文化を学ぶのか」と悩み、その選択を後悔しているひともいるかもしれません。

ロシアの言葉・文学・文化は、もちろん、「ロシア」という場と強く結びついています。ウクライナに侵攻したロシア政府はおそらく今後も、ロシア語やロシア文学・文化を、「ロシア国家」の大きな要素として利用しようとするでしょう。実際、国家というものが古来、言語や文化をプロパガンダに利用し、自分たちの道具としようとしてきたことは、歴史が示しています。

しかし、ロシア語やロシア文学・文化を学ぶことは、現在、多くの国々から当然の非難を受けているロシア政府の軍事侵攻を肯定することを意味してはいません。むしろ、ロシア語で書かれた文学や思想の多くは、昔から、権力と権力が生み出す不条理に抗し、これを批判してきました。存続のために多くの資金を要する演劇やバレエ、映画や音楽などは、体制の支援を受けながらも、国家や権力の枠組に収まらない人間の喜びや笑い、悲しみや怒り、そして美を表現してきました。

ロシアの言葉・文学・文化は、国家や体制の枠を越え、より広く、深く、多様です。

近代日本をはじめ世界の文学に大きな影響を与えてきたツルゲーネフやドストエフスキー、トルストイやチェーホフは、ロシア国家のものでしょうか。

ロシア軍の侵攻を受け、傷ついているウクライナに住むロシア人、ロシア語を母語とするウクライナ人は、侵攻してくるロシア軍のことに責任があるでしょうか。

今回の侵攻に対してロシア国内外で挙がっているロシア語での反対の声を、ロシアの政府と同一視することができるでしょうか。

答は否です。

ロシアに限らず、あらゆる言語や文学や文化は本来、国家から自律した営みです。権力に簒奪されるとき、文化や思想は力を失います。だから私たちは、国家や体制よりも広く大きな、文学や学問の場に拠って立つのです。

さきほど、「ロシアの言葉・文学・文化は、ロシアの国家や体制を越え、より広く、深く、多様です」と書きました。

しかし同時に、それらはとても脆い。現在、ロシア国内で進行しているのは、剥き出しの暴力、言論統制、弾圧であり、文化人、学者、市民の自由な活動が制限されています。まさに今、本来語られるはずだった多くの言葉が奪われ、失われつつあります。そして、ロシアという国は国際社会で孤立を深めています。

そのような二重の疎外に瀕しているロシア語の話し手たち、ロシア文学・文化の担い手たちを、さらなる孤独へと追いやってはなりません。コミュニケーションの回路を保ち、彼らと対話していかなければなりま

せん。「国家」によって急速に分断されつつあるように見える現在の世界で、その枠組を超え、互いにつながっていかうとするのは、私たち自身にとっても大切なことです。

今日の状況でロシアの言葉・文学・文化を学ぶことの意味を、私たちはこのように考えています。

2022. 3. 15

日本ロシア文学会

#### 4. ウクライナ情勢に関する情報共有のお願い

- 今回のウクライナの事態の影響で、現在来日中のウクライナ国籍・ロシア国籍の学生や研究者、あるいはロシアやウクライナに滞在中の日本人留学生や研究者に何らかの影響や措置が及ぶ可能性が考えられます。

日本ロシア文学会では、情報を集約して、必要に応じて学会員 ML で適宜お伝えしていきたいと思えます。留学生や渡航・帰国等に関して何か重要な情報をお持ちの時は、どうぞ日本ロシア文学会事務局 ([yaar@yaar.jp](mailto:yaar@yaar.jp)) に随時ご連絡ください。情報を共有する際には必ずプライバシーその他に留意します。

- 日本ロシア文学会は、3月15日に発出した「[ロシアの言葉・文学・文化を今、あるいはこれから学ぶ皆さんへ](#)」に基づき、ロシア語ロシア文学・文化の教育研究環境が守られるよう努めます。新年度の開始にあたって、学会員間の情報の集約と共有をより一層進めてまいりますので、下記学会 HP を適宜ご参照の上、情報を事務局 ([yaar@yaar.jp](mailto:yaar@yaar.jp)) までお寄せください。HP や ML 等での公開を希望されない場合には、その点を明記してご連絡ください。

##### [ウクライナ情勢に関わる学術関連情報](#) (学会 HP)

- ・ 留学生に関する情報
- ・ 学術界の反応 ((1) 学会 (2) 大学等 (3) 学会員の各種メディアにおける公式発言 (4) 関連報道等)
- ・ 教育研究環境の維持

日本ロシア文学会

会長 中村唯史

#### 5. 2021 年度第 71 回総会報告

第 71 回定例総会・研究発表会 (筑波大学・オンライン大会) は、2021 年 10 月 30 日 (土)、31 日 (日) の両日、Zoom によるオンライン方式で開催されました。10 月 30 日 (土) 午後開催された定例総会の主な内容は以下の通りです。

- 開会の辞 会長：三谷恵子 (以下敬称略)

三谷恵子会長が開会の辞を述べた。

- 日本ロシア文学会賞表彰
  - 【論文部門】安野直
  - 【著書部門】松下隆志

学会賞選考委員会ヨコタ村上孝之委員長による選考結果の報告を事務局書記安達が代読し、三谷恵子会長から安野直・松下隆志両氏に表彰状が授与された。副賞は事務局から送金された。

● 議長団選出 【候補】小俣智史（関東）・ペトリシェヴァ ニーナ（中部）・塚田力（関西）  
該当支部からの推薦に基づき、三名の議長候補が示され、全会一致で承認された。

● 報告事項

1. 事務局報告

庶務会計秋山真一から、以下の報告が行われた。

- ・ 配布資料1に基づき、会員異動（2020年10月25日～2021年10月24日）について、以下の報告が行われた（敬称略・五十音順）。

○逝去（正会員3名）

川端香男里（関東）・鈴木淳一（北海道）・山口巖（関西）  
ご冥福をお祈りいたします

○退会（正会員8名）

五十嵐陽介（西日本→関東）・岩田貴（関東）・川上洸（関東）・桑野隆（関東）・  
田村充正（関東）・土居伸彰（関東）・前田恵（関西）・山口涼子（関西）

○入会（正会員9名）

赤淵里沙子（あかふち・りさこ：関東：ルナチャルスキー・初期ソ連文化政策）

推薦者：坂庭淳史・源貴志

池澤匠（いけざわ・たくみ：関東：現代ウクライナ言語純粹主義）

推薦者：三谷恵子・楯岡求美

キシリョフ・エフゲーニ（きせりよふ・えふげーに：関西：国際ビジネスコミュニケーション）

推薦者：清水俊行・金子百合子

佐藤大雅（さとう・ひろまさ：関東：アゼルバイジャン文化）

推薦者：沼野恭子・前田和泉

田村太（たむら・ふとし：関西：ロシア文学・サヴィンコフ・ロープシン）

推薦者：中村唯史・服部文昭

堤縁華（つつみ・よりか：関東：ソ連文学・現代アゼルバイジャン文学）

推薦者：安岡治子・村田真一

平寫寛大（ひらしま・かんだい：関西：18世紀ロシア喜劇）

推薦者：清水俊行・北見諭

深瀧雄太（ふかたき・ゆうた：関西：19世紀ロシア文学・ニコライ・レスコフ）

推薦者：中村唯史・服部文昭

米山貴文（よねやま・たかふみ：関東：ソビエト映画・スポーツと文学）

推薦者：加藤百合・白山利信

現会員数

一般会員 456名

## 賛助会員 17 団体

- ・ 配布資料 2 に基づき、学会財政レポートが行われた。

### 2. 各種委員会報告

【国際交流委員会】楯岡求美委員長から、2021 年度 71 回大会の国際枠として 3 名が参加して報告したこと、参加費用 5000 円は PayPal による振込方法を利用して徴収したことが報告された。

【広報委員会】本田晃子委員長から、以下の報告が行われた。

- ・ 直近一年間の学会 HP の更新は 76 件で前年度 136 件より大幅減、コロナ禍によるイベント減少の影響と推測される。ML の配信は 87 件（同 81 件）で前年度とほぼ変わらない。
- ・ 学会 HP の新プラットフォームについて、concrete5 を採用してコンテンツの移行作業を進め、年度末をめどに新 HP を公開する予定である。なお HP の新しい機能について要望がある場合、広報委員会に連絡するよう各種委員長にお願いがあった。

【大賞選考委員会】服部文昭委員長が欠席のため、代理として三谷恵子会長から以下の報告が行われた。

- ・ 2021 年度（第 8 回）日本ロシア文学会大賞の推薦はなかったため、該当者は有りません。総括としては、本大賞も回を重ね、その意義とともに、問題点も明らかになってきました。今後、新執行部・理事会のもとで、建設的な検討をお願いします。

【大会組織委員会】貝澤哉委員長から、今回の大会への応募総数 21（うち一般発表 15、国際枠 3、ワークショップ 3）件であったことが報告された。

【大会実行委員会】白山利信委員長から、配布資料 3 に基づき、オンライン班の準備運営、プレシンポジウムについて報告が行われた【その後 11 月末日現在の情報として、学会員限定の Zoom 登録者数は 62 名（そのうち参加者数は 47 名）、非会員の YouTube ライブ視聴者数は 361 名、11 月末日までの全期間における再生回数（ライブを含む）は 1102 回だった】。また大会ポスターが筑波大学のスタッフにより筑波大学の費用負担で制作されたことが報告された。

### 3. 支部会の今後について

三谷恵子会長から、配布資料 4 に基づき、東北支部からの現状報告と問題提起を受け、学会全体の問題として支部体制を検討するための支部連絡会を各支部支部長・事務局、学会執行部・事務局で立ち上げ、5 月 23 日にオンラインで会合を開いたことが報告された。

### 4. 他の学会活動報告

特に無し。

### 5. その他

特に無し。

## ● 審議事項

### 1. 2020/2021 会計年度決算および会計監査報告

事務局庶務会計秋山真一から、配布資料 5 に基づいた報告が行われた。この際基金における「学会国際交流基金」は 10 年物で運用しており、今後当該項目にはその旨だけを記載することについて提案があった。監査は、木村崇監事からはオンラインで、諫早勇一監事からは対面で受けた。以上が承認された。その後三谷恵子会長から、木村崇監事に任期の 2 年間を超過して 3 年間監査をしていただいたことがわかり、秋山を通じ

てお詫びとお願いを行ったことについて、報告とお詫びがあった。

## 2. 2021/2022 会計年度予算案

事務局庶務会計秋山真一から、配布資料 6 に基づいた提案があり、これが承認された。この際事務委託料について、会員情報管理の外部委託を想定した場合、初年度のみ初期費用が約 20 万円かかることについて説明があった。

## 3. 会員情報管理の外部委託の可否

広報委員会本田晃子委員長から、配布資料 7・8・9 に基づき、シクミネットに外部委託する提案があり、これが承認された。会員による会費の支払いや支払い状況の確認も可能になる。全てのデータを参照できるのは全国・各支部の事務局とする。会員間の相互検索機能が実装された後、新年度からの委託開始を予定している。

## 4. 学生会員制度について

三谷恵子会長から、配布資料 10 に基づいた提案があり、これが承認された。

## 5. 規約のロシア語訳について

学会 HP の規約のロシア語訳について、三谷恵子会長から、2009 年ごろから更新が止まっている現状が相沢直樹編集委員長の指摘により発覚したことについて、報告とお詫びがあった。次期執行部・理事会の下、事務局・関係委員会・ネイティブ会員からなるワーキンググループを作成し、改訂版を作成する方針が示され、これが承認された。

## 6. JCREES 幹事の選出方法について

三谷恵子会長から、配布資料 11 に基づき説明が行われるとともに、意見の聴取が行われ、学会として引き続き検討することになった。

## 7. 全国大会の開催方法と来年 2022 年度の大会について

三谷恵子会長から、複数専任教員が在籍する大学の減少や支部体制の現状を踏まえ、関東支部とそれ以外の支部が一年ごとに交替して会場校を担当するこれまでの慣例を見直し、今後は地域に関わらず担当可能な大学に打診する、という提案があった。以上が承認された。

その後、来年 2022 年度の大会について、三谷恵子会長から、対面での開催を前提に、第一候補として専修大学神田キャンパス（石川達夫教授）、第二候補として創価大学（寒河江光徳教授）に内諾をいただいていることが報告され、これが承認された。

## 8. 2021/22 年度役員・理事・各種委員一覧

三谷恵子会長から、配布資料 12 に基づき、顧問・監事に関する説明を加えて提案された。次年度の大会組織委員会・実行委員会については委員が決まり次第組織する。国際交流委員会楯岡求美委員長から、古宮路子氏を委員に加える提案があった。以上が承認された。

## 9. 新型コロナウイルス感染拡大のために経済的被害を受けられた会員の方に対する会費免除について

三谷恵子会長から、昨年度と同様の趣旨・内容での提案があり、これが承認された。



## 10. その他

特に無し。

### ● 会長選

阿出川修嘉選挙管理委員長から、郵便投票（第一次投票）の結果報告が行われ、三位までの上位得票者が五十音順に以下のように示された：貝澤哉、中村唯史、沼野恭子。

引き続き Zoom の投票機能を用いて第二次投票を行ったが、投票者の過半数を得た候補者がおらず、上位二名（貝澤哉、中村唯史）で決選投票を行った。中村氏が多数得票者となり、会長に選出された。中村氏は会長職受諾の挨拶を行った。

### ● 議長団解任・閉会の辞

議員団が解任され、中村唯史副会長が閉会の辞を述べ、閉会となった。

## 6. 10月・12月・2月・3月理事会関連事項

10月理事会は10月24日（日）、ウクライナ情勢に関する臨時理事会が2月27日（日）および3月11日（金）の2回、すべて Zoom によるオンラインで開催されました。12月理事会は12月19日（日）、久しぶりの対面にオンラインを併用したハイブリッド開催でした。主な報告事項および審議事項は以下の通りです。

**10月理事会**（前節の総会報告を参照）

### **12月理事会**

日 時：2021年12月19日（日）15:00–18:00

開催方式：東京大学（本郷キャンパス）法文1号館215教室+Zoomによるオンライン

（以下敬称略）

議事に先立ち中村唯史会長から、配布してある前回理事会及び総会（2021年10月）議事録の確認が行われた。

### ● 報告事項

#### 1. 事務局報告

- ・ 庶務会計秋山真一から、配布資料3に基づき、会員異動（2021年10月～2021年12月）について以下の報告が行われた（敬称略・五十音順）。メールアドレス・住所不明の方について、事務局へ情報提供していただくよう呼びかけが行われた。

#### ➤ 退会

賛助会員1社

- （株）ユーラストラベル（旧社名：ユーラスツアーズ）

一般会員1名

- トルストグーソフ・アレクサンダー（とるすとぐーそふ・あれくさんだー）

#### ➤ 住所不明（情報をお寄せください）

- 赤尾光春（あかお・みつはる）、秋月隼也（あきづき・じゅんや）、井上徹（いのうえ・とおる）、菊池嘉人（きくち・よしと）、金玗英（きむ・ひょんよん）、工藤孝史（くどう・たかふみ）、コルコ・マリア（こるこ・まりあ）、下郡健志（しもごおり・たけし）、菅谷広子（すがや・ひろこ）、世利彰規（せり・あきのり）、田辺三千広（たなべ・みちひろ）、恒任翔吾（つねとう・しょうご）、ブガエワ・アンナ（ぶがえわ・あんな）、宮本友介（みやもと・ゆうすけ）

➤ 入会

● なし

- ・ 庶務会計秋山真一から、配布資料 4 に基づき、学会財政リポート（2021 年 9 月 1 日～12 月 4 日）が行われた。

2. 2021/2022 年度役員・理事・各種委員一覧

中村唯史会長から、総会以降の決定事項として、副会長、幹事（交代を交互に行うため村田真一の任期は特例として 3 年間とする）、JCREES 幹事、大会組織委員会、大会実行委員会が報告された。中村会長が職務遂行不可能になった場合、野中副会長が会長代行を務めることが承認された。

3. 各種委員会報告

【学会誌編集委員会】坂庭淳史委員長から、配布資料 6 に基づき、以下の報告が行われた。

- ・ 『ロシア語ロシア文学研究』54 号刊行へ向けての作業スケジュール。
- ・ 『ロシア語ロシア文学研究』53 号 PDF について。2021 年 12 月末までに J-STAGE 上での公開、4 月初めに学会 HP 上での公開を目指して作業中。
- ・ 2021 年 7 月理事会で取り上げられた「学会誌掲載の書評に対する反論・応答の機会を確保する必要性について」は、現在委員会内で検討中。

【広報委員会】本田晃子委員長から、以下の報告が行われた。また、HP 上で行っている学会員の新刊情報の共有をより徹底する方針が確認された。

- ・ 前回 2020 年 12 月理事会から、HP の更新 75 件、ML の配信 89 件。前年比で HP 微減、ML 微増となっており、一般向け／学会員向けによって HP と ML を使い分ける傾向がうかがえる。

【大賞選考委員会】野中進委員長から、配布資料 7・8 に基づき、大賞候補者推薦の呼びかけが行われた。また大賞選考委員会の日程調整が行われることが予告された。

4. 支部会問題について

- ・ 中村唯史会長から、2022 年度 4 月より統廃合の準備を始めること、執行部より中村会長と事務局が関係支部（支部長・事務局等）との調整に当たることが報告された。最長で 2023 年の総会までに作業終了を目指す。手順はまず東北支部・西日本支部・中部支部に統廃合の意思を再確認する。
- ・ 全支部に検討をお願いしたい点として以下 4 点があげられた。また、事務局庶務会計秋山真一から、会計引継ぎに基づく補足があり、関東支部と東北支部が合併した場合も、地理的に関東地区外からの理事会等への出張に対しては旅費を支給することを検討する。
  - ①会員名簿の統合（会友の扱い等）
  - ②会計の統合（支部会費、会友会費等）
  - ③支部規約の調整
  - ④全国・支部間の情報共有のありかた

1. その他

- ・ 安達大輔から、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターが 2022～2027 年度共同利用・共同研究拠点として認定を受けたことが報告されるとともに、ロシア文学会の推薦に対して謝辞が述べられた。
- ・ 事務局庶務会計秋山真一から、新型コロナウイルス感染拡大のために経済的被害を受けられた会員の方

に対する会費免除について、締切（12月20日）前日の時点で6名の申し込みがあることが報告された。締切後は執行部・事務局で協議の上諾否を判断し、7月理事会で報告する。

● 審議事項

1. 2021年度第71回大会組織委員会の総括

貝澤哉委員長から、1. 組織委員会活動報告 2. 申請と採否 3. 総括と問題点から成る大会総括が行われ、これが承認された。今後は2022年度の同委員会への資料引継ぎが行われる。

2. 2021年度第71回大会実行委員会の総括

- ・ 白山利信委員長から、別紙資料9に基づき、関係者への謝辞とともに大会総括が行われ、これが承認された。なお大会運営にご尽力いただいた以下の方々について会報に掲載して特に謝意を表す。

【大会実行委員会オンライン班】

➤ 設定・運営実務主担当

笹山啓（筑波大学・オンライン班責任者）、青山忠申（東京大学）、梶山祐治（筑波大学）、古宮路子（東京大学）

➤ 補助メンバー

安達大輔（北海道大学）、加藤百合（筑波大学）、楯岡求美（東京大学）、本田晃子（岡山大学）

【選挙管理委員】（各支部選出）

阿出川修嘉（関東、委員長）、小川佐和子（北海道）、長谷川章（東北）、佐藤規祥（中部）、高田映介（関西）、松枝佳奈（西日本）

- ・ その他以下が承認された。
  - 大会開催にあたって大会資料集・学会HP（7-12月頃の期間限定）に大会実行委員会（オンライン班を含む）・大会組織委員会のメンバーを掲載する。
  - 大会に使用するZoomアカウントは開催校のものを可能な限り使用させていただく。

3. 2022年度第72回大会について

- ・ 2022年度大会組織委員会前田和泉委員長から、委員会のメンバーが紹介された。
- ・ 2022年度大会実行委員会石川達夫委員長から、説明があり、これに基づいて以下が承認された。
  - 専修大学での開催決定に至る経緯の説明があった。
  - 配布資料10・11・12に基づき、予算と会場の説明が行われ、日程・会場については大学の事情によって変更の可能性もある旨留保があった。会場費は学士会館以外には発生しない。例年通り大会自体の会計と懇親会費の会計は別々に処理する。また大会実行委員会のメンバー、および会場校に近い東京大学の協力者2名（青山氏・池澤氏）が紹介された。中村会長より補足があり、長期的にはハイブリッド開催の可能性を模索しつつ、今大会の開催方法については今後検討する。
  - 大会資料集の紙媒体廃止・完全PDF化については今後組織委員会・実行委員会を中心に検討する。
  - 組織委員会・実行委員会の分担については、前者がプログラム作成、後者がそれを引き継ぎ大会資料集作成含め運営を担当すること、また例年四月に組織委員長主導で合同委員会を開くことが確認された。

4. 国際交流助成の公募

国際交流委員会武田昭文委員長から、配布資料13に基づき、2021-2022年度の国際交流助成の公募案に

ついて諮られ、これが承認された。

5. 日本ロシア文学会規定類翻訳ワーキンググループについて

野中進副会長から、配布資料 14 に基づき、本学会の規定類に関する日本語原本とロシア語訳の対応が不十分である状況に対応するため、日本ロシア文学会規定類翻訳ワーキンググループを組織し、諸問題の整理と対応の実施を行う提案があった。構成は、野中進（座長）、安達大輔、井上幸義、グレチュコ・ヴァレリー。すべての規定類を翻訳する必要はなく、学会員に謝金を支払って作業を進めていただく。7月理事会で提案を行い、2022年度内の作業完了をめどにする。なお学会 HP の新システムへの移行後は、会長挨拶のロシア語訳は当面掲載しないことになった。

6. 学会 HP の新システムへの移行について

- ・ 広報委員会本田晃子委員長から、配布資料 15・16・17 に基づき、シクミネットを用いた会員情報管理について説明があった。掲示板機能について質問があったが、掲示板の使用を予定していない旨回答があった。
- ・ 事務局庶務会計秋山真一から、会費納入手続きの移行期間の措置として、最大一年程度勝美印刷との契約は続けて様子を見るのが提案された。賛助会員に対しては、年度ごとに請求書を郵送して支払いをお願いする。
- ・ 事務局書記安達大輔から、会報、HP・ML、郵送等で会員に広報・周知することが報告された。

7. 若手ワークショップの次期募集について

事務局書記安達大輔から、資料 18・19・20 に基づき、本学会のさらなる活動促進と若手会員の業績形成支援のため、「若手ワークショップ企画支援プロジェクト」の理念を受け継ぎながらさらに発展させることを目的として、「日本ロシア文学会若手ワークショップ企画賞」を創設するとともに募集を開始することが提案され、これが承認された。

8. JCREES からの代表のジェンダーバランスに関する打診への対応について

中村唯史会長から、資料 21・22 に基づき、JCREES 代表幹事からの、ジェンダー・バランスの観点から、代表を各学会 2 名、男女 1 名ずつにしてはどうかという提案に対する対応案が示され、以下が承認された。

- ① この案の実施には、女性会員への業務集中を危惧する観点から、現時点では積極的には賛成しない。
- ② ただし、今回の提案の意図には賛同する。JCREES 加盟各学会が、代表 2 名（男女各 1 名）ということで合意するなら、日本ロシア文学会はそれに対応する準備がある。
- ③ その場合には、現在の中村会長に加え、前田副会長が代表となる。

9. 声明発出までの手順について

中村唯史会長から、資料 23 に基づき、以下の提案があり、これが承認された。

- ① 日本ロシア文学会は、学術研究者の親睦団体なので、その声明の発出は、学術的見地から判断して不可避の場合とする。
- ② 声明の発出が考えられる場合は、そのつど、原則として（メール審議を含む）理事会に諮って対応を検討する。
- ③ 発出主体の名義は、「会長」「理事会」「学会」の 3 段階を想定する。
- ④ 名義は、実際に議論し、声明発出に合意した範囲に基づく。

## 10. その他

中村唯史会長から、次回理事会を7月16・17日いずれかに開催することについて提案があり、これが承認された。

前回開催の理事会・総会の議事録が異議なく確定された。

### 2月27日臨時理事会

2月24日(木)に始まったロシア軍のウクライナ侵攻を受け、2月27日(日)17:00-19:00にZoomによる臨時オンライン理事会を開催した。協議の結果以下のように決定した。

- ・ ウクライナの情勢に関する声明を「日本ロシア文学会理事会および中村唯史会長」を主体名義として発出する。文面の確定順に速やかに日本語、英語、ロシア語、ウクライナ語の声明を学会HPに掲載し、MLで学会員に周知する。SNS等での拡散は構わない。【その後2月28日(月)に「[ロシア軍のウクライナ侵攻への抗議声明](#)」が発出された。】

### 3月11日臨時理事会

ウクライナ、ロシア、日本国内外の状況の深刻化を受け、3月11日(金)12:00-13:00にZoomによる臨時オンライン理事会を開催した。協議の結果以下のように決定した。

①学会HPに今回の事態に関連するバナーを当面恒常的に設置し、そこで種々の情報の集約や、学会員のアクションの情報を掲載していくことに決定した。情報収集の呼び掛けは学会員MLに10日のうちに送信、学会HPは事務局安達が準備する。【その後広報委員会本田晃子委員長により「[ウクライナ情勢関連情報](#)」が開設された。】

②ロシア語を学習する学生、ロシアやウクライナの文学や文化を研究する若い世代へのメッセージを、学会HP、学会員MLに掲載周知することに決定した。【その後3月15日に「[ロシアの言葉・文学・文化を今、あ  
るいはこれから学ぶ皆さんへ](#)」が発表された。】

③ロシア・東欧関係学会協議会(JCREES)に働きかけて、現在のヘイト的な状況に対して、言論人・研究者の立場から、危惧を表明する共同声明の発出をめざすことに決定した。共同声明が無理な場合には、今後の状況の推移を見ながら、ロシア文学会独自の声明発出も検討する。【その後、JCREES幹事間で声明発出の可否と文案について検討した結果、共同声明の発出は見送られた。】

## 7. 会員異動(2021年1-12月)

ご逝去(一般会員):川端 香男里様(関東)、鈴木 淳一様(北海道)

入会(一般会員:敬称略):赤渕 里沙子(関東)、池澤 匠(関東)、キセリョフ エフゲーニ(関西)、佐藤 大雅(関東)、田村 太(関西)、堤 縁華(関東)、平寫 寛大(関西)、深瀧 雄太(関西)、米山 貴文(関東)

退会(一般会員:敬称略):五十嵐 陽介(西日本→関東)、岩田 貴(関東)、川上 洸(関東)、田村 充正(関東)、土居 伸彰(関東)、トルストグーソフ アレクサンダー(東北)、前田 恵(関西)、山口 涼子(関西)、

退会（賛助会員）：(株) ユーラストラベル

(いずれも五十音順)

## 8. 新役員・委員（敬称略）

会長	中村唯史（2021年全国大会～2025年全国大会）
副会長	野中進、前田和泉（2021年全国大会～2023年全国大会）
事務局	秋山真一（2020年度全国大会～2024年度全国大会） 安達大輔（2018年度全国大会～2022年度全国大会）

理事（2021年全国大会～2023年全国大会）

北海道支部	大西郁夫（支部長）、岩原宏子〔事務局長：菅井健太〕
東北支部	長谷川章（支部長）〔事務局長：川辺博〕
関東支部	沼野恭子（支部長）、朝妻恵里子、阿出川修嘉、大須賀史和、貝澤哉、鴻野わか菜、越野剛、坂庭淳史、楯岡求美、鳥山祐介、野中進、前田和泉、三浦清美、八木君人（事務局長）
中部支部	杉本一直（支部長・事務局長）、中澤敦夫
関西支部	金子百合子（支部長）、藤原潤子（事務局長）、横井幸子、ヨコタ村上孝之
西日本支部	佐藤正則（支部長・事務局長）

顧問	井桁貞義、諫早勇一、佐藤純一、沼野充義、望月哲男
監事	寒河江光徳（2021年全国大会～2023年全国大会）、村田真一（2021年全国大会～2024年全国大会）
JCREES 幹事	中村唯史

各種委員会（2021年全国大会～2023年全国大会：\*は2021年度大会～2022年度大会）末尾カッコ内は委員委嘱・選出規約

編集委員会	坂庭淳史（委員長）、相沢直樹、阿出川修嘉、大平陽一、大森雅子、高柳聡子、田中大、長谷川章、平松潤奈、山路明日太
学会賞選考委員会	八木君人（委員長）、黒岩幸子、中澤敦夫、乗松亨平、藤原潤子、村田真一
国際交流委員会	武田昭文（委員長）、グレチコワレーリー、古宮路子、齋須直人、高橋沙奈美、楯岡求美
広報委員会	本田晃子（委員長）、伊藤愉、岩本和久、梅津紀雄、梶山祐治、神竹喜重子
社会連携委員会	鴻野わか菜（委員長）、北井聡子、高橋健一郎、堤正典、鳥山祐介、松下隆志

倫理委員会	佐藤千登勢（委員長）、大西郁夫、コベルニック ナディア、佐藤正則、前田和泉
大賞選考委員会	野中進（委員長）、鴻野わか菜、坂庭淳史、佐藤千登勢、武田昭文、中村唯史、本田晃子、前田和泉、八木君人
2022 大会組織委員会*	前田和泉（委員長）、石川達夫、臼山利信、武田昭文、鳥山祐介、長谷川章
2022 大会実行委員会*	石川達夫（委員長）、安達大輔、古宮路子、桜井厚二、高柳聡子、武田昭文、楯岡求美

## 9. ホームページリニューアルのお知らせ

学会ホームページの大幅なリニューアルを今年4月以降に予定しています。リニューアル後も学会からのお知らせや新着情報、規約等は従来通り閲覧可能です。

大きな変更は、ログインをすると会費の支払い等をホームページ上でしていただくことができる点です。システムの変更に伴って会員のみなさんにしていただく作業については、学会のメーリングリスト等で事務局より丁寧に説明していくつもりでおりますが、現在判明している変更の概要は以下の通りです。

（画像はイメージです。実際の画面はデザインが異なる可能性があります。）

- リニューアル後のホームページ上に「会員 My Page」というボタンが表示されます。
- 「会員 My Page」ボタンを押してログインページに移行し、会員 ID とパスワードを入力すると会員画面に移行できます。

ログインページ

**会員ログイン**

アカウント

パスワード

[アカウントを忘れた方はこちら](#)  
[パスワードを忘れた方はこちら](#)

※マイページの利用は各種情報の登録が必要になります  
マイページへのログインすることにより、以下の権限を行使したものとみなします

サンプル画像  
[会員登録](#)  
[個人情報を開示](#)

[リンク先](#)  
[個人情報を開示](#)

固有のID/PWを入力しログイン

- ID とパスワードはホームページリニューアル後、お知らせします。（パスワードは忘れても再設定が可能です。ご安心ください。）
  - 会員画面から会費の支払い、支払い方法の設定、会費の納入状況の確認、領収書の発行（オンライン振込の場合のみ）などを行うことができます。
- ※ このシステムを利用せず、従来通り、郵便局から払込取扱票（振込用紙）を使用して会費を振り込む方式も当面は継続します。

みなさんからご登録いただいている住所やメールアドレス、所属先、所属支部などの個人情報は自動的に新システムに引き継がれますので、みなさんに改めてご登録いただく必要はありません。ただし、4月を境に住所や所属などが変わられる方は早めに事務局までご連絡ください。

## 10. その他

○2022年度全国大会は10月21～23日に専修大学神田キャンパスにて開催されます（21日はプレシンポ）。申請エントリー受付開始は5月初旬の予定です。詳細は後日学会HPやMLでご案内します。

## 11. 事務局からのアナウンス

○会報は原則として毎年2月の発行が通例となっていますが、今回はウクライナ情勢を受けてこの時期にずれ込んでしまいました。ご了解をお願いいたします。

○就職等に伴って支部を移る際には、会員ご本人が全国の事務局までご連絡ください。その後の支部間の連絡や調整については事務局で手配いたします。各支部での周知の徹底をお願いいたします。

### 会費督促についてのお知らせとお願い

事務局（庶務会計）からのお知らせとお願いです。3月より未納会費の督促を行います。会費滞納のある方は、至急お支払いくださいますようお願いいたします。振替用紙がお手元にない場合、郵便局に備え付けの振替用紙をお使いください。（加入者：日本ロシア文学会、口座番号：00100-7-6507）

なお、2021/2022年度にご入金いただいた場合でも、それ以前の年度に滞納があれば、ご入金分は以前の年度の滞納分に充てられますので、「2021/2022年度分滞納」という督促が改めて届くことになります。ご了承ください。

すべての学会活動は皆様にお納めいただく会費によって成り立っております。ご理解・ご協力をお願いいたします。

○学会ホームページでは、学会内外で行われるロシア語・ロシア文化全般に関する催しについての案内を積極的に掲載しておりますので、適時閲覧して頂ければ幸いです（<http://yaar.jpn.org/>）。

○現在、事務局から会員への連絡は、一部を除き一斉メールで行っております。まだ連絡用のメールアドレスを事務局にお届け頂いていない会員におかれましては、ご自身のメールアドレスと氏名を事務局にご送信下さい（[yaar@yaar.jpn.org](mailto:yaar@yaar.jpn.org)）。また、お知合いの会員でメールによる学会連絡のない方がいらっしゃいましたら、事務局あてにご一報くださるよう、お勧めください。

なお、メールは大量一斉送信しているため、誤って「迷惑メール」に分類される場合があります。学会メーリングリストからの配信が長期間届いていないと感じられたら、まず「迷惑メールフォルダ」等をご確認いただくようお願いいたします。

○『ロシア語ロシア文学研究』53号（2021年）がお手元に届いていない会員の方は、現在のご住所（郵送先）を事務局にお知らせください。また、お知合いの会員でそのような方がいらっしゃいましたら、事務局あてにご一報くださるよう、お勧めください。

## 12. ご訃報

○本会会員で、前会長の三谷恵子氏が2022年1月17日（月）にご逝去されました。衷心よりご冥福をお祈りいたします。



## 三谷前会長の早過ぎるご逝去を悼んで

服部文昭

日本ロシア文学会の前会長、三谷恵子さんが亡くなりました。ご闘病中とはご本人から伺ってはいましたが、その余りに早過ぎるご逝去に多くの方々が言葉を失ったものと思います。追悼文を書くには、金田一真澄さんを始め、ふさわしい皆さんが他にいらっしゃるのですが、中村会長からの「三谷さんのご冥福をお祈りするためにも」との勧めもあり、敢えてお引き受けいたしました次第です。

最近の三谷さんのご活躍ぶりに関しては、皆さんよくご存じなので、大昔の話から始めます。

杓子定規な言い方をすれば、三谷さんの指導教官は栗原成郎先生、私の指導教官は佐藤純一先生でしたが、佐藤、栗原両先生は、栗原先生が駒場在職中にはお二人相部屋の研究室であったように、言わば「つうかあ の仲」でしたので、三谷さんと私は両先生の授業に分け隔てなく出席して、文字通り「机を並べて」勉強するという今の若い皆さんからすれば夢のような得難い経験を、私はさせていただきました。

三谷さんは、卒業論文で現代ロシア語における不定形構文を（主旨は「現代ロシア語における不定形構文の構造と叙想表現について」として『Rusistika：東京大学文学部露文研究室年報』巻2、1982年で読むことが出来ます）、修士論文で中世ロシアの重要文献である ДОМОСТРОЙ を（主旨は「ДОМОСТРОЙ の言語--コンシン所蔵写本による言語的特徴の研究より」として『ロシア語ロシア文学研究』（16）、1984年で読むことが出来ます）、それぞれ論じられました。この ДОМОСТРОЙ 論を三谷さんはロシア文学会で口頭発表されましたが、その発表（内容にもプレゼンにも）に深く感銘を受けた或る大御所の先生が、学会誌への掲載に際し、先生が個人的にお持ちの中世ロシア語の活字の提供を申し出られたというエピソードを聞いた記憶があります（今と全く違って、当時は中世ロシア語を印刷することには大きな技術的困難があったのです）。

余談になりますが、その後、私も大学教員となり、多くの学生・院生諸君の卒論・修論の審査にも携わりましたが、どうしても三谷さんの卒業論文、修士論文が常に基準として頭から離れず、結果として多くの学生・院生諸君に辛口の評をするはめになり、彼らにはとんだとぼっちりだったかもと、遅まきながら反省しています。それほど三谷論文の水準が高かったのです。

1986年10月から旧ユーゴスラビア（現クロアチア）のザグレブ大学哲学部に留学（～1988年9月まで）、猛勉強されて、アスペクト論で博士号を取得されました。寮で勉強中に幻を見るくらいに没頭したと伺いました。またこの論文は、今もザグレブ大のコースでの読書リストに掲載されているとも三谷さんから伺ったことがあります。東大露文に戻られて、1990年4月、露文研究室の助手として奉職されました。1992年、「ロシア語における名詞句の構造と機能の研究—発話のなかの名詞句の"不定・定・照応"」という論文で課程博士となります。つまり、まったく別個のテーマの博士論文を二つ書かれ、それぞれに博士の学位を取得されたのです。三谷さんならではの離れ業でしょう。

その後、1993年6月、筑波大学文芸言語学系講師となります。この頃は、お勤め先のこともあったのか、理論研究的、対照言語学的、また類型論的なお仕事も増えましたが、文献学的な研究も常に心掛けられました。加えて、その言葉を話す人々へのアプローチ、社会的、フィールドワーク的なお仕事も好んで手掛けられました。今でこそ、ソルブ語も日本の学界でも知られていますが、実証的な研究の日本での先駆者でした。さらにルシンとかスラヴの「小さな言語」の実証的な研究の日本での先駆者であったことも確かです。そして、どんな研究にせよ、形にして世に出し、社会に貢献するところまで仕上げるのが三谷流でした。当時、人気があった大修館の『月刊 言語』に海外のスラヴ諸語研究の動静を的確に紹介された記事を不定期に連載していたことなどもその一例です。

1999年4月から2013年3月までは、京都大学人間・環境学研究科に在職されました。これまで通りご自身の研究を進展させると同時に、多くの院生・学部生の諸君を指導され、その見事なお仕事振りに私も含め同僚皆が感嘆するばかりでした。

そして古巣の東大文学部に戻られましたが、この辺りからは、皆様のご承知の通りです。

スズネフスキーを記念したシンポジウム、木村彰一先生を記念したシンポジウム、いずれも三谷さんの企画力、組織力、実行力を遺憾なく示したものでしょう。また、「スラ研」の愛称で知られる北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターから競争的資金を得てのプロジェクトもロシアやブルガリア、クロアチアなど海外の権威も交えたシンポジウム開催などで、ご記憶に新しいと思います。こうしたことの集大成が日本ロシア文学学会会長就任でしょう。

以上に述べましたような三谷さんのお仕事振りはどこから来ているのでしょうか？冒頭の頃の話に戻りますが、三谷さんは若くしてお母様を亡くされ、その同じ病を三谷さんも得ていて、とても強い薬を用いた治療を受けねばなりません。三谷さんから「薬の副作用などで頭が利かなくなる前に、やりたい研究をとことん追究したい」と伺いました。『徒然草』の中の「賀茂の競べ馬を...」でしたかの「我等が生死の到来、ただ今にもやあらん...」と通じるような人生観、我々には及びもつかない覚悟といったものが三谷さんの原動力だったのではと推測しています。

こう書いてきますと、三谷さん、研究と仕事だけの人生だったと誤解されかねません。お書きになった物だけでなく、三谷さんと直に話をされたような皆さんは、けっしてそんなことは無かったとご存じでしょう。三谷さんの温かく、心の広い人柄に気づくはず。そして三谷さんが豊穡な人生を過ごされたことも確かです。

日々の小さなことですが、歌がお上手でカラオケもお好きでした。お酒が強かったことも確かですが、チョコレートを始め甘い物が好物で、横浜元町の喜久屋のビスキュイや京都の阿闍梨餅、また北海道のあれこれのお菓子もお好きでした。若い頃にはオートバイを駆り、スキューバダイビングに親しまれたような一面もお持ちでした。この文章を書く内に、ふと思い出したことがあります。三谷さんが、「子供の頃、『シャーロック・ホームズの冒険』を好んで読むか『赤毛のアン』を好んで読むかで、その後の人生が決まる」というようなことをおっしゃった。三谷さんは、もちろん(?)『シャーロック・ホームズの冒険』派でした。また、三谷さんの書く文章はどれもお上手で味が有るというようなことを申し上げたら、「ええ、馬込の文士村の育ちですからね」とおっしゃたことも思い出しました。

最後に海外からの追悼も少しだけ引かせていただきます。

ロシアの著名な研究者 Александр Молдован さんから

Мы глубоко скорбим об уходе из жизни нашего дорогого друга Кэйко Митани. Она была замечательным ученым, тонким знатоком славянских языков и славянской письменности, активным организатором японской и мировой славистики.

Мы сохраним Кэйко Митани в нашей памяти как доброго и внимательного человека, заботливого к коллегам и ученикам.

Выражаю сердечное соболезнование Вам и всем коллегам Кэйко Митани.

ブルガリアの権威 Anissava Miltenova さんから

Very sad news. I am very sorry, for me and for my colleagues in mediaeval studies it is really an unforgivable loss.

We would like to note her contribution to palaeoslavic studies and her valuable discoveries and interpretations.

I would like to write in memoriam note in our journal Scripta & e-Scripta (22, 2022). Also to devote to Keiko Mitani our session at the Society of Biblical Literature conference.

三谷さんの個別のお仕事は、CiNii や Amazon をご覧になれば、すぐに分かりますので、特に言及しませんでした。月並みな感想ですが、三谷さんは千手観音のような存在なので、私が知り得るのは、せいぜい、そ

の二面と四本の腕くらいです。三谷さんを知る皆さんの心の中にある三谷さん像を大切にして忘れないでいることが、その早過ぎるご逝去へのせめてもの追悼かと思う次第です。

日本ロシア文学会会報 第51号 (2022年3月31日発行)

発行人 中村唯史 編集人 日本ロシア文学会事務局

〔書記〕 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 安達大輔研究室内

〔庶務会計〕 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学外国語学部 秋山真一研究室内

E-mail : [yaar@yaar.jpn.org](mailto:yaar@yaar.jpn.org) (共通)